

# 「まち1986」を読んで

女性パワーを忘れないで

「文化」で自治会の活性化を

「まち1986」を読んで

「まち98」を読んで

魅力ある「西谷」に

我が町・希望が丘が本になった。嬉しくなつて読みました

今、行政に求められているもの

千秀地区に住んで思うこと

仕事を通して考える

## 女性パワーを忘れないで——松井佐子

「まち1986」を手にした時、港南台だけをざっと読んでみた。その時の感想は「なによ、大きなものが一つ欠けているんじゃないの」と

思い、それ以上読む気にならなかった。しかし、今あらためてじっくりとI-V部まで読んでみた。その感想は一口で言うと、非常に興味深く面白かった。そして、よくぞこまで調べたもの、と感心しました。またこのような研究会に私も是非参加し

たいと思った。しかし、港南台の記述については、やはりいま一つ足りないものがあると思う。私はその点について書いてみたい。

### 第一小学校は新生港南台の核

港南台は十数年前住宅公団により大規模に開発され、突然実現したという表現にふさわしく、人も住まない円海山のふもとに出現した街である。大型団地から小規模団地、そし

て一戸建住宅群とがうまく融合しており団地だけの冷やかさはない。九・九パーセントと言ってもおかしくないほど住民は新住民であり、四十九年頃の入居者は昭和の一ケタの終わりから二ケタの始めの人たちである。

昭和四十九年九月二日（一日は日曜日だった）港南台第一小学校は、生徒数百五十人ほどで開校した。この日を期して、港南台に息が吹き込まれた、そんな思いのする小学校の開校だった。私自身昭和四十九年八月、大規模

団地第一号のめじろ団地の入居の一月余り前、第一小開校に合わせて清掃工場近くに転居して来た。清掃工場はすでに活動しており、六月にはプールも始まっていた。

開校まもなく、教人しかいないクラス（団地入居をふまえクラス数は多かった）から二人ずつの父母が集まり、今でいう父母会みたいな性格の世話人会が発足した。この会の提唱で、何もない学校のために雑巾を作ろうと父母に声をかけた。当日、なんと三階の家庭科室はお母さんたちでいっぱいになってしまい、雑巾

ぬいはすぐ終わってしまった。

また毎日毎日入居する団地へダンボールを集めに行くことになった。学校備品の充実のための資金づくりである。毎日毎日ゴミ置き場に捨ててある大きなダンボールをたたんでまとめ、廃品回収業者に売った。めじろ団地、ちどり団地と走り回り、たくさんのダンボールを処分し、各教室に時計をとりつけることができたのである。

このお母さんたちの情熱は一体何なのか。この母たちの情熱こそ、この女性たちのパワーこそ、港南台を支え発展させ、住みよい街に仕立てていった力なのである。この母の、女のパワーが、港南台の根底の力だと思ふ。そのパワーが満ちていた第一小は、新生港南台の核であった。この力をけっして忘れては、また、見のがしてはいけない。

### 自治会、子供会は街の基盤

港南台の造成は一斉であったが、団地や家々是一群ずつ徐々に増えていった。そして、そのかたまりごと

に、きっかけは色々だったが自分たちの必要から自治会が誕生していった。それと同時に、子供を持つ親たちが子供のふるさと作りを根底に、子供会育成に力をそそぎ、親たち、子供たちの仲間作りが始まった。

私は思う。好きな者同士の集団は、それなりに自由なよさはあるだろう。しかし、仲たがいや意見の相違があればかんたんにこわれてしまう。それはそれでもよい。しかし、地について住む者たちにとって、隣り近所との一連のつながりは不可欠のものではなからうか。住民同士が仲よく、地域を大切に、人を大切にし、住みよい街を、努力して手をつなぎ作り上げてこそ、好きな人たち、目的を同じくする人たちの和が生まれてくるのではなからうか。その基盤は、小さくは自治会組織であり、大きくはオール港南台の安定活動だと思ふ。

新生のパワーに満ちていた第一小の開校から六年が経って昭和五十五年、港南台連合自治会が発足し、それより一年前母親たちの力で子供会

も連絡会ができ、親たちのふるさと作りは着々と進行していったのである。

### 女性パワーの源泉

港南台は四十九年頃からの一斉入居なので住民の年齢層は同じである。入居の頃は、夫は働きざかりで家庭や学校の事に気をつかうゆとりがなく、妻にまかされていた人が多かった。また、この年代は中学・高校を戦後の民主主義教育、男女同権の中で育てている。従ってみんな

力に合わせて物事を進めてゆく事に慣れており、古い世代が居ないので、義理や体面に気をつかう必要がなく、さらに男性に気がねすることなく女性がのびのびと自分たちの力を発揮して活動できたこと、そしてこれからも活動できる条件が揃っていること——これが港南台の大きな

特徴だと思ふ。母親たちは子供たちのために、女性たちは自分たちのために活動ができ、そして今なお活動しつづけているのである。

「まち1986」に紹介されたグループも女性の活動グループばかりである。しかし、最近では地域全体の年齢があがり、活動に男性の姿をみるようになってきたように思う。これからは男性とのかかわりも考えて楽しい会を作り、港南台の発展に寄与したいと思ふ。

△港南台連合自治会婦人部長、港南台社会福祉協議会副会長、港南台民生委員協議会婦人民生委員代表、港南台少年サッカークラブ顧問、前・港南台連合自治会副会長、前・港南台青少年指導員協議会副会長、元・港南台子供会連絡会会長、元・港南台第一小学校世話人会副会長▽

### 「文化」で自治会の活性化を

池下高志

港南台に移り住んで八年、この間の六年間は会社勤めで、港南台とい

う地域社会には、ほとんど私は関心がなかった。せいぜい、近くの店に